

その他の観光渋滞対策について ～地域の取組事例～

その他の観光渋滞対策について

「観光先進国」の実現に向けて、アクセス経路の機能強化や交通情報の提供のほか、既存ストックの有効活用、駐車場容量の最大活用、周辺観光地との連携により、観光地への円滑なアクセスを推進

既存ストックの有効活用

- 幅広路肩を活用した車線運用
専用レーンを設けて通過交通と観光交通を分離し渋滞を緩和
- パーク&バスライド
観光地周辺の空き地等を臨時駐車場等に活用したパーク&バスライドを実施

駐車場容量の最大活用

- 駐車場の事前予約
空き容量のある周辺駐車場に事前予約システムを導入
観光地に近い駐車場に集中する車の分散を図り入庫待ち渋滞を削減

周辺観光地との連携

- 周辺観光地・観光施設への誘導による交通分散
- 混雑時間の交通集中を分散
周辺観光施設の割引クーポンや混雑時間帯を避けた観光客へインセンティブを付与

富良野ラベンダー園における観光渋滞対策(北海道中富良野町)

既存ストックの有効活用

課題

- ラベンダー期の7月3連休において、ラベンダー園への観光交通等の増加に伴い、中富良野交差点では先詰まりが発生し、通過交通である直進交通を阻害
- 3連休に突出する駐車需要や、中富良野交差点の交通需要偏在が要因

▼中富良野町内国道237号旅行速度：観光期(休日)【時間帯別・DRM区間別旅行速度】



平成29年度の取組 - 7月3連休のラベンダー一期に実施

- 幅広路肩を活用した車線運用、仮設誘導看板設置
 - 空き地等を臨時駐車場等に活用したパーク&バスライド
 - ・富良野土地改良区等の近郊駐車場等と観光地を結ぶシャトルバスを運行
 - ・シャトルバス運行経路は、主に町道(渋滞区間を極力回避)
 - ・臨時駐車場を利用した人向けに割引クーポン(リフト50円OFF等)を配布し利用を促す
 - 広報チラシ(中富良野町役場、観光協会、観光事業者と協働)による取組周知
- 【取組結果(速報)】
- パーク&バスライドは、臨時駐車場を116台が利用し199名が乗車(7月15日)
 - 当該取組により、前年度より渋滞長が減(H28:L=1.1km⇒H29:L=0.9km)※
 - 渋滞緩和や天候等による観光行動への影響等については分析中

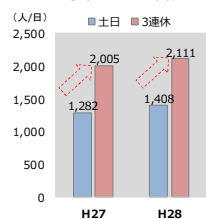
※パーク&バスライド取組時間帯(9:30~15:00)での平均渋滞長



平成28年度の取組

- 入込客が特に多くなる7月の3連休に、幅広路肩を活用した車線運用を実施
 - ・上り方向における通過交通の円滑化に向け、幅広路肩を活用し横断面再配分を図り、旭川方面とラベンダー園へ向かう車線を分けて車線運用
 - ・広報チラシ(中富良野町役場、なかふらの観光協会と協働)により取組を周知
- 取組により、過去3年間の平均と比較し、渋滞長が半減

▼町営ラベンダー園7月平均入込客数



3連休の入込客が特に多い

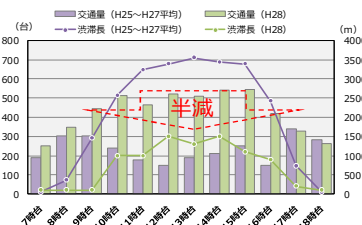
▼車線運用



▼広報チラシによる取組周知



▼取組による効果(国道237号の直進交通量と渋滞長)



連携体制

国道237号中富良野町交通円滑化検討会
(第1回H29.2.17、第2回H29.3.24)

【構成】

中富良野町役場、旭川開発建設部、北海道警察(富良野警察署)、なかふらの観光協会、中富良野町商工会、観光事業者(ファーム富田、彩香の里佐々木ファーム)、中富良野ハヤ-

課題

- 入園者数は約200万人/年を突破し、特にイベント開催月に来場者が集中(H25年度:2万人超の来場日は34日)
- 駐車場は複数確保しているが、入園口隣接駐車場へ集中し、入庫待ちの渋滞が発生。

【西駐車場入庫待ち状況】



【ひたち海浜公園周辺の走行速度状況】

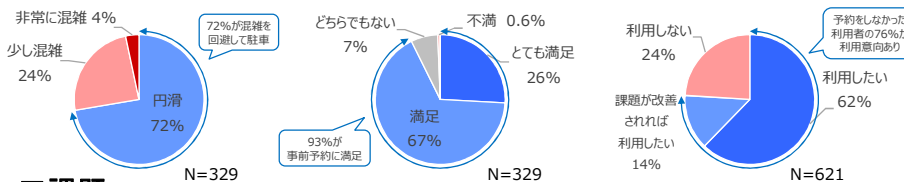


平成28年度の取組

- 実施内容
 - ・比較的空き容量があり、混雑箇所を回避して駐車可能な臨時駐車場へ誘導するため、駐車場の事前予約を試行(全駐車マス8,200台のうち700台を予約枠に設定)
- 駐車場の予約、利用状況 [平成28年10月23日 入園者数:54,590人]

予約枠数	予約台数(率)	利用台数(率)
700	688 (98%)	441 (64%)

利用者アンケートの結果



課題

- ①予約枠が早期に満車となったことから、より多くの予約枠が必要。
- ②予約率は高いが、当日キャンセルが多いため、利用率を上げる工夫が必要。
- ③利用者の満足度は高いが、入庫待ちによる渋滞の緩和がみられなかった。

平成29年度の取組 - 10月の紅葉シーズン予定

- 平成28年度の取組みを踏まえ、課題を改善するための対策を追加して駐車場の事前予約を試行
- ①駐車場の事前予約枠の増加
 - ・予約枠が早い段階で満車となったことを踏まえ、駐車場の予約枠の増加を検討
 - ※予約枠の増加により一般利用車の駐車マス減少することへの苦情等も考えられるため、予約枠の増加数については、施設管理者との調整が必要
- ②当日キャンセルによる空き容量の有効活用
 - ・事前予約制としていたため、当日キャンセルへの対応ができなかったことから、当日キャンセル・予約を簡易に行うことができる方法を検討し、空き容量を有効活用
- ③混雑回避ルート案内の拡充
 - ・入園口に隣接する西駐車場への入庫待ち車両が、公園周辺道路の渋滞要因であることから、HP、PUSH型情報提供等を活用した、混雑回避ルート案内の拡充を検討



上記の追加対策による駐車場の事前予約を試行し、交通分散による混雑緩和への効果を確認する。

連携体制

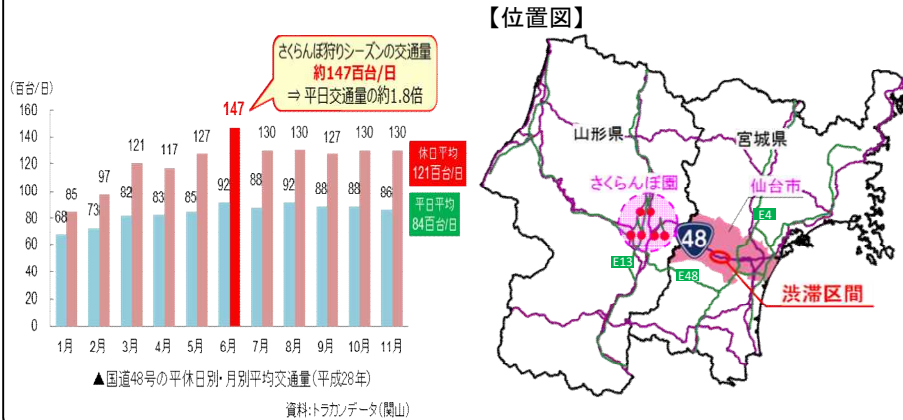
- ひたちなか地区事業調整連絡会 道路関係部会
- 【構成】
 - 常陸河川国道事務所、国営常陸海浜公園事務所
 - 東日本高速道路(株)水戸管理事務所、ひたち公園管理センター
 - 茨城県警察本部、ひたちなか西警察署、ひたちなか東警察署
 - ひたちなか市、東海村、茨城県、茨城県道路公社、(株)茨城ポートオーソリティ

さくらんぼ狩りににおける観光渋滞対策(山形県東根市等)

周辺観光地との連携

課題

- ・国道48号の宮城・山形県境周辺は、毎年6月のさくらんぼ狩り期には、通常の1.8倍の交通が集中



平成28年度の取組

- ・平成28年度は、高速ルートの情報提供、新聞折込チラシ部数の増刷、新たな情報案内看板の設置など、取り組みを強化



平成29年度の取組 — 6月のさくらんぼ狩り期に実施

作戦① 混雑時間を回避!

①混雑時間を避けたオススメ出発時間

行き 仙台⇒山形



帰り 山形⇒仙台



▲交通誘導施策による交通分散

○交通誘導施策による交通分散

- ⇒道路混雑時間帯以外のさくらんぼ園来園者に対し入園料を割引、温泉入浴券の無料配布によるインセンティブを付与
- ⇒迂回情報案内看板(6箇所)による経路分散対策

○広報・周知の強化

- ⇒広報・周知期間の拡大 (H28: 10日間⇒H29: 24日間(6/9～7/2))
- ⇒情報発信策の強化・充実 (チラシ配布方法を仙台市内新聞折込から仙台市内小学校児童配布に変更、混雑予想看板を7⇒21箇所に増設等)

○交通容量拡大

- ⇒国道48号白沢交差点(上り)の右折滞留長延伸による交通容量拡大

【取組結果(速報)】 ※取組内容と取組結果の関係性については分析中

- さくらんぼ園入込数: 東根市で186.8千人(H28) ⇒ 192.2千人(H29)と増加
- 所要時間: 仙台市⇒さくらんぼ園 121分(H28) ⇒ 88分(H29)と短縮
- 渋滞長: 白沢交差点(仙台⇒山形)で2,900m(H28) ⇒ 2,100m(H29)と緩和

連携体制

宮城県渋滞対策連絡協議会 上愛子地区検討部会

【構成】

国土交通省東北地方整備局、国土交通省仙台河川国道事務所
宮城県、仙台市、宮城県警察本部、東日本高速道路株式会社東北支社
(オブザーバー) 国土交通省山形河川国道事務所

【インセンティブ施策への協力】

山形県東根市、山形県天童市



▲迂回誘導看板

(参考)平成29年度に実施する観光渋滞対策 ※一部実施中を含む

対策タイプ	観光地・観光資源	取組概要
既存施設の 有効活用	伊勢神宮 (三重県伊勢市)	・年末年始等に、周辺施設の大型駐車場と国道23号に設置した仮設のバス専用レーンを活用したパーク&バスライドを実施
駐車場の 最大活用	出雲大社 (島根県出雲市)	・GWや神在月(11月頃)に、空き容量のある駐車場の有効活用や臨時駐車場への分散を図るため、駐車場の事前予約を実施
	佐賀城下ひなまつり (佐賀県佐賀市)	・駐車場を探すうろつき交通を削減するとともに、まつり開催エリアへの流入を抑制するため、駐車場の事前予約を実施
周辺観光地との 連携	恐竜博物館 (福井県勝山市)	・午前中に集中する来場者を時空間的に分散させるため、HPやSNS等により市内の他観光地や渋滞状況、P&R駐車場等の情報を提供
	四万十川 (高知県四万十市)	・狭隘区間への不慣れな県外客の集中を避けるため、周辺の道の駅において時間限定のクーポンを配布
アクセス経路の 機能強化等を 契機とした対策	<small>おいらせ</small> 奥入瀬・十和田湖 (青森県十和田市)	<small>あおふなやま</small> ・青撫山バイパスの整備を契機に奥入瀬溪流沿いの現道活用方法を検討 ・モビリティマネジメントによる広域迂回や通行自粛規制を実施
	道後温泉・松山城 (愛媛県松山市)	・国道33号に集中する松山IC ⇄ 市内へのアクセス交通に対し、松山外環インター線の全通を活かし、目的地別のルート案内により分散化。 ・あわせて、高速バスの経路を変更
交通情報の 提供	花火大会 (新潟県長岡市)	・過去のルート別の帰宅所要時間の実績や交通状況を発信 ・郊外臨時駐車場を活用したパーク&バスライドを実施
	高山市街地 (岐阜県高山市)	・HPやSNS等により所要時間情報等を提供するとともに、出発時刻の変更による渋滞回避を呼びかけ
	倉敷美観地区 (岡山県倉敷市)	・流入経路を分散させるため、山陽道鞆島ICからのアクセスルートの周知 ・ETC2.0等を分析し、無料シャトルバスの運航日や便数等を最適化